

「えっ、うちの子に限って…」

子育ての目的は「自律・自立」です。その重要なポイントは心の発達における「自分らしさ」の確立とされています。そのためには少年期・青年期に「誰かに認められること」が何より大切です。

子ども達の言うこと、すること、考えたこと、表現すること…それらを善悪でジャッジする前にまず「〇〇ちゃんはそう思ったんだ」と認める。しかし、「認める」と「賛成」することは違います。その子どもの思いや考えを聞いた上で、大人として、あるいは親としての意見を子どもに伝えます。「〇〇ちゃんはそう思ったんだね」「でもそれは違うと思うよ」とか「いい考えだなあ」などと。その積み重ねが心の安定感を育み、青年期に「自分らしさ」を確立する土台になります。

指示や命令の強い環境で育った子どもは、考えや感情を素直に表せず、大人しく従順な顔を持ちます。また、何をしても思い通りになる環境で育った子どもは、我が儘が当たり前になり、大らかでリーダー的な顔を持ちます。しかしそれらの顔とは別に、全く違った非社会的な陰の顔を持つことも多いのです。そして「認められ感」の欠乏によるストレスが引き金となって陰の顔が現れます。いじめ、暴力傷害事件、性犯罪、引きこもりなどです。「どうしてあんないい子が…」と大人たちは首を傾げます。自分でも「本当の顔」が分からなくなってしまうのです。

「うんうん」「そうかそうか」まずは聴いて受止めましょう。「認める」ことは「賛成」でなくてもいいんです。まずは「うんそう屋」に徹してみましょう。